

「SNS と子どもの健康」を考えよう

デジタル技術の急速な進歩により、約 30 年前にスタートした Facebook や Twitter (現 X) といった SNS (Social Networking Service) は瞬く間に社会に広がり、それまでのマスメディアに変わり SNS が情報収集の主役になりつつあります。それに画像が主体の Youtube や Instagram が加わり、ゲームもネット上で行われるようになり、そこでの人間関係が重要になっているのです。

「インスタ映え」を気にして生活し、「推しの Youtuber」に親密感を感じたり、ゲームを含むネットで出会った友達「ネツ友」が人間関係の中心になってきています。例えば、女の子との話で、「彼氏いるの?」という問いに、「いるよ」という返事が返ってきても、「ネット?リアル?」と聞かないと実態がわからないのです。ネットの中だけで完結する関係性でも「愛している彼氏」と認識している子どももいます。このように、社会の人間関係というネットワークの作り方自体が大きく変化していますし、人間として外界どう見るかという認知の仕方も変わってきているのです。

一方で、子ども達にとっての危険も存在します。子ども達がそれに没頭して睡眠を削ったり、ネットいじめが横行したり、デジタルタトゥーと呼ばれるように、一度ネットに上がってしまうと完全な削除は不可能という問題もあります。自分の性的な映像を送ってしまって、ばらまかれる不安に怯える子どもも少なくありません。また、SNS の場合、その人の関心に合う情報だけが選択されて届けられているという事実も知らないと、それで全体を見ているように誤解し、独特の考えにはまってしまう危険もあります。

このような危険から子どもを守るためには、大人たちが SNS とその子どもへの影響を正確に理解する必要があります。今回の市民公開講座では、我々の日常に欠かせなくなっている便利な SNS を理解し、子どもへの影響、特に子どもにとっての危険を知り、それにどう向き合うか、どのようにデジタルリテラシーを高めるかなどについて考えていきたいという趣旨で、4 人の方々にお話しいただきます。演者のお話を聴きながら、皆様も一緒に考えてみてください。